

作品鑑賞の楽しさ

滝沢 具幸

この7月には当館の特別展として、富岡鉄斎展(布施美術館コレクション)を開催する。鉄斎の気運生動、気韻に満ちた筆触と墨色の妙を楽しみたい。

先日、国立近代美術館で藤田嗣治展を見た。レオナルド・フジタとしてパリで活躍した彼の日本的線描と、画面の白い陶磁のような地肌に魅了された。

また、ブリジストン美術館では「雪舟からポロックまで」というタイトルの展示を見た。日本や東洋、西洋の古典から、近・現代の絵画彫刻、抽象絵画までの名品、逸品が展示されていた。作品は質が高く充実していた。美術はその

時代を写す鏡であり、それぞれの時代の特質を示していることは確かである。展示されたいくつかの作品はその技法や表現法、発想に、時代や洋

の東西を越えた共通点も見られ、大変興味深く思った。展示作品のひとつ、雪舟の四季山水図はその構図や筆使いにおいて、セザンヌの作品と相通するものを感じた。雪舟の岩石を表現するために用いている斧壁皴という技法は、セザンヌの「サント・ヴィクトワール山」のタッチに近

いと思った。雪舟が用いた筆が何であったかわからないが、太めの筆を斜めに使って立体感を出すために打ち込んだ筆触は、セザンヌの立体、空間表現と同じように力強い。

また中国出身のザオ・ウーキーの流れるような抽象作品にも、ベルギー出身のアンリ・ミッシュウの墨の飛沫によって描いたデッサンにも雪舟が

破墨山水で用いたような東洋絵画の墨画の前衛的手法と重なって見えたのは驚きであった。筆法をとおして時という空間を越えて、画家の息遣いが感じられたのである。

展示会場でジャクソン・ポロックが鉄斎画を見たかもしれないと想像してみるのも楽しいことではないだろうか。

インフォメーション ⑦→⑨月

- 美術博物館 ▶ お問い合わせ: 0265-22-8118
- ◎特別展示
 - 富岡鉄斎展 -厳しさと奔放さの芸術- 7/22(土) → 8/20(日)
 - 遠山大地変と埋没林 7/22(土) → 9/24(日)
 - 遠山霜月祭の世界 10/1(日) → 11/5(日)
 - ◎平常展示
 - 作品と親しむ4 菱田春草「菊慈童」 8/25(金) → 9/24(日)
 - 伊那谷の洋画家たち 8/25(金) → 9/24(日)
 - ◎プラネタリウム
 - 夏の番組「銀河鉄道の夜」 → → 9/3(日)
 - 秋の番組(未定) 9/9(土) → 12/3(日)
 - ◎特別展講演会
 - 富岡鉄斎 -美の特質- 7/23(日) 10:00~
講師:野中吟雪氏(新潟大学教授)
 - 埋没林が語る古代の自然災害 7/23(日) 13:30~
 - ①遠山地震と埋没林 講師:寺岡義治氏(伊那谷自然友の会)
 - ②年輪年代学と古代の歴史・災害(仮題) 講師:光谷拓実氏(奈良文化財研究所)
 - ◎美博特別講座「地方という新領域」
 - 雪舟と山口 -画業形成のあり様について- 9/16(土) 13:30~
講師:中島純司氏(佛教大学教授)
 - ◎自然講座
 - 不思議な自然と出会う 7/28(金) 19:00~
 - 不思議な草木の世界 8/10(木) 19:00~
 - 遠山大地変と埋没林 8/17(木) 19:00~
 - ハエは完全な変態か!? 9/14(木) 19:00~
 - 根羽で見つかった山体のない火山 9/21(木) 19:00~
 - ◎美博文化講座
 - 「上久堅の民俗」報告会 7/15(土)・7/29(土) 19:00~
 - やさしい仏像の見方 -仏像の起源- 7/25(日) 19:00~
 - 葬送習俗の昔と今 8/8(日) 19:00~
講師:前澤奈緒子氏(伊那民俗学研究所会員)
 - 信州のやきもの(仮題) 9/3(日) 13:30~
講師:仲野泰裕氏(愛知県立当時資料館学芸課長)
 - ◎子ども美術学校 7/22(土)・8/19(土)・9/3(日) 13:00~

- 上郷考古博物館 ▶ お問い合わせ: 0265-53-3755
- ◎子ども科学工作教室
 - 天体望遠鏡を作ろう 9/9(土) 10:00~
 - ◎宇宙をのぞこう(親子で学ぶ天文講座)
 - 流れ星を探る 8/26(土) 15:00~
 - ◎夏休み自然相談教室 8/6(日)・8/13(日)・8/20(日) 10:00~15:00
※8月13日に化石クリーニング、20日には化石レプリカ作成を実施します。
 - ◎美博まつり 8/12(土)
※学芸員が行う12種類のワークショップ、展示、プラネタリウムも無料開放します。
 - ◆臨時休館日 7/19(木)~21(金)・8/22(水)・9/26(水)~30(土)
- ◎夏期展示 7/15(土) → 9/18(日)
- ◎夏季展示講座 7/22(土) 13:30~
- ①飯田城下の発掘 講師:馬場保之氏(飯田市教育委員会)
 - ②上溝11号古墳について 講師:澁谷恵美子氏(飯田市教育委員会)
 - ③前林遺跡について 講師:澁谷恵美子氏(飯田市教育委員会)
 - ④栗屋元遺跡について 講師:坂井勇雄氏(飯田市教育委員会)
 - ⑤遠山地区の遺跡 講師:吉川金利(上郷考古博物館学芸員)
- ◎展示解説会 8/6(日)・9/10(日) 10:30~・14:00~
- ◎夏休み原始体験 7/30(日) 9:30~
土器での煮炊きや火起こし体験
- ◎大人の土器作り教室・縄文土器を作ってみよう 9/16(土) 9:00~
焼成

- ◎追手町小学校 化石標本室 ▶ お問い合わせ: 美術博物館へ
- ◎公開日 7/23(日)・30(日)・8/6(日)・13(日)・20(日)・9/3(日)・24(日) 10:00~16:00
 - ◎化石レプリカ作成 7/23(日)・9/24(日) 10:00~16:00
- ◆寄贈品御礼
オノサト・トシノブ 「2つの丸」 1面
前田産業株式会社様 ありがとうございます。

2006 VOL. 074

テラス

飯田市美術館ニュース

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" Vol.074
発行: 飯田市美術館
http://www.iida-museum.org/



特別展示 布施美術館コレクションによる

富岡鉄斎展 — 厳しさと奔放さの芸術 — ① 7/22(土) → 8/20(日)

飯田下伊那では、時折、富岡鉄斎(1836-1924)の書画に出会うことがあります。例えば、いくつかの小学校には堂々とした書額が掛けられていることがあります。また、書画に親しまれている個人宅にお邪魔した折に、書簡などが扁額に納められて飾られている光景を目にすることもしばしばです。

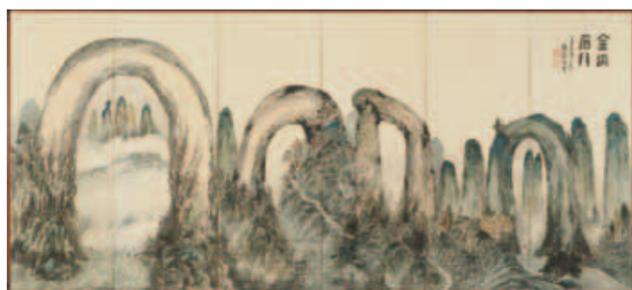
富岡鉄斎は、明治8年と明治36年の2度にわたって飯田下伊那の地を訪れました。和文漢籍に明るく国学に通じた鉄斎は、南北朝期の伝承が残る浪合村(現阿智村浪合)に調査に訪れました。そして、国学に親しみ文雅を好んだこの地の人々の歓待を受けました。鉄斎の逗留先では書画を求める者が後を絶たなかったとも言います。

鉄斎の優れた芸術は、飯田下伊那の地を出ても高い評価を受けています。学識に裏付けされた気風の高い世界観や筆線や色彩を大胆に踊らせる個性的な作風は、当時の南画界において他の追随を許さないばかりでなく、日本の近代を代表する画家のひとりとして、欠くことのできない存在と捉えられています。

鉄斎自ら「私の画を解するには賛を読んでほしい」と言及しているように、鉄斎の

書画の深奥に迫ることは容易ではありません。それを成し遂げるには豊富な知識と経験を要し、書画の専門家ですらなかなか真髓にたどり着けないものです。しかしながら、その圧倒的な力強さや自由さは、私たちの脳裏に深い印象を留めてくれます。それが鉄斎芸術の不思議な魅力でもあるのです。

布施美術館(滋賀県伊香郡高月町)の創始者となった布施巻太郎(1881-1970)は、この鉄斎の精神と芸術に心を寄せ、鉄斎作品をコレクションの主要な一角に据えました。鉄斎の晩年には鉄斎本人とも交流し、その精神を互いに認め合ったようです。



①「妙義山図」 富岡鉄斎 71歳 (財)布施美術館蔵

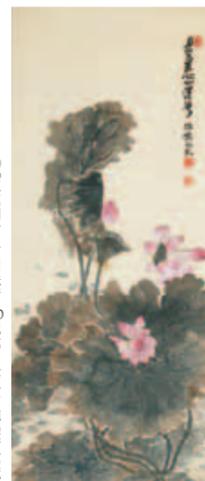
この度の展覧会では、布施美術館の優れた所蔵作品によって、鉄斎芸術の魅力と奥深さをご紹介します。(横村)



①「雅斎図」 富岡鉄斎 50歳代 (財)布施美術館蔵



①「東坡煮菜図」 富岡鉄斎 89歳 (財)布施美術館蔵



①「紅蓮図」 富岡鉄斎 50歳代 (財)布施美術館蔵



③「上溝1号古墳出土装飾付大刀柄頭」 飯田市教育委員会蔵



③尾ノ島館遺跡出土壺形土器(弥生時代中期) 飯田市立遠山中学校蔵

上郷考古博物館夏期展示

飯田の遺跡 速報展 — 最近の調査成果と上村・南信濃地区の遺跡・遺物 — ③ 7/15(土) → 9/18(月)

今年度の展示は、最近の発掘調査成果と昨年合併いたしました上村・南信濃地区の遺跡・遺物をご紹介します。以下ポイントとなる資料を紹介し

ます。上郷栗屋元遺跡では縄文時代中期後葉の住居址及び同時期の遺物が出土しました。縄文土器の躍動感をご覧ください。羽場権現堂前遺跡からは縄文時代から弥生時代への移行期にあたる、東北の亀ヶ岡式の流れを汲む水

土器と一緒に出土しています。当地域は東西文化の合流点であったことがわかります。竜丘前林遺跡からは弥生時代後期の住居址の床下穴から管玉が発見されました。なぜこのような場所にあったのか皆さんも考えてください。松尾

上溝11号古墳は墳丘が削平されていましたが、石室の下部は残っており副葬品として多くの遺物がありました。装飾付大刀の柄頭には銀象嵌が施されていました。川路辻前遺跡では古墳時代の大量の木器が発見されています。現代の道具と違いがあるのでしょうか。飯田城下町遺跡は江戸時代の町人の暮らしぶりを垣間見ることが出来ます。

上村・南信濃地区は、急峻な地形であることから、中部高地に於ける西側文化の玄関口であることから、伊那谷と違った興味深い遺

跡・遺物が多くあります。縄文時代早期から中世期の複合遺跡である尾ノ島館遺跡からは数多くの遺物が出土しています。特に弥生時代前期から中期の遺物は必見です。十原神社前遺跡は縄文時代中期の土器が多く出土しています。両地域の遺物は学校に保管されているものが多いため、是非この機会にご覧ください。また展示にあわせた夏季展示講座、展示解説会を開催します。こちらもお聴きくださるようお願いいたします。(吉川)

特別展示 新飯田市誕生記念企画展

遠山大地変と埋没林 ② 7/22(土) → 9/24(日)

飯田市南信濃大島から木沢にかけての遠山川沿いに、河原や川の中から立木が点々と頭を出ています。樹種はヒノキが多く、ツガ、モミ、ケヤキ、クリなどです。太いものでは直径2mにおよぶような巨木もありました。これらの巨木たちが土砂に埋もれて埋没林になっているのは、何らかの事件があったはずで

す。遠山川の埋没林は、寺岡義治氏(飯田市上郷在住)と光谷拓実氏(奈良文化財研究所)の研究によって、西暦714年に埋もれたことが分かりました。一方、続日本紀や扶桑略記などの歴史書には、ほぼ同じ年代の記録の中に「遠江地震で山がくずれ、天竜川をせき止めた。数十日後に決壊して遠江の村々は洪水に見舞われた。」という記述があります。この二つの事実から、地震による地変の舞台は天竜川でなく、天竜川支流の遠山川だったと考えられます。埋没林とその周辺の地質調査から、次のようなことが分かりました。

①西暦714年に内陸直下型地震が遠山付近で発生。中央構造線が活動した可能性が大きい。

②地震の大きな揺れで、池口川左岸の日陰山が大崩壊。くずれた多量の岩石は池口川を

流れ下って、合流点の大島までを埋めた。

③深い峡谷だった遠山川は大島でせき止められ、上流に水がたまって天然ダムができた。

④遠山川沿いの森は天然ダムの湖に沈んで、しだいに土砂に埋まっていた。

この一連のできごとを“遠山大地変”と呼ぶことにしました。

今回の展示では、埋没林がもつ不思議な世界を紹介するとともに、遠山を襲った地震とそれに伴う山くずれおよび天然ダム形成という一連の“遠山大地変”を科学的に解説し、遠山の大地の営みを考えます。(村松)



②714年に埋没したヒノキの発掘(小澤秋三氏撮影)



②長野県西部地震でできた天然ダム(寺岡義治氏撮影)



②河床から頭を出す埋没林

表紙の作品 / 菱田春草「菊慈童」 明治33年(1900) 絹本着色 181.1 × 110.7cm 本館蔵

古代中国は周の時代、穆王に可愛がられた慈童という少年がいました。あるとき彼は罪を受けて、奥深い深山へ流されてしまいます。しかし山中で菊の霊力を得て、永きにわたって少年の姿を保ったといわれます。春草はこの伝承をもとにして、本図「菊慈童」を描きました。幽遠な深山の気配が、見事にあらわされた作品です。